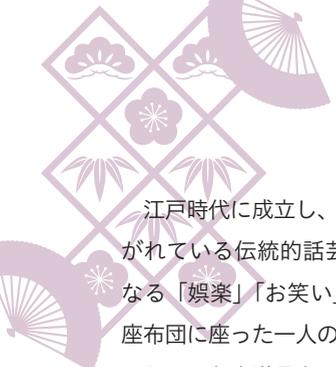


出典：春廻家幾久・編 一恵齋芳幾・画《春色三題噺 口絵・三題噺の会の会場》(部分)東京都立図書館所蔵

江戸の「落語」観光ガイド

—今に息づく、東京の心。—

Edo Rakugo Tourist Guide: The Spirit of Tokyo



江戸時代に成立し、現在まで脈々と受け継がれている伝統的話芸「落語」。それは、単なる「娯楽」「お笑い」にとどまりません。座布団に座った一人の噺家が、扇子や手ぬぐいといった小道具を巧みに操り、モノや心情、人の動きなどを表現していくのです。さらに磨き上げられた話術を駆使して、江戸時代の町並みやそこに生きる人々の生活を鮮やかに描き出してきました。そこからは江戸の人々の考え方、生き方なども感じ取れ、笑いの中にほんのりとした人情も感じることができでしょう。

江戸の「どこにでもいる人々」を主人公とした落語

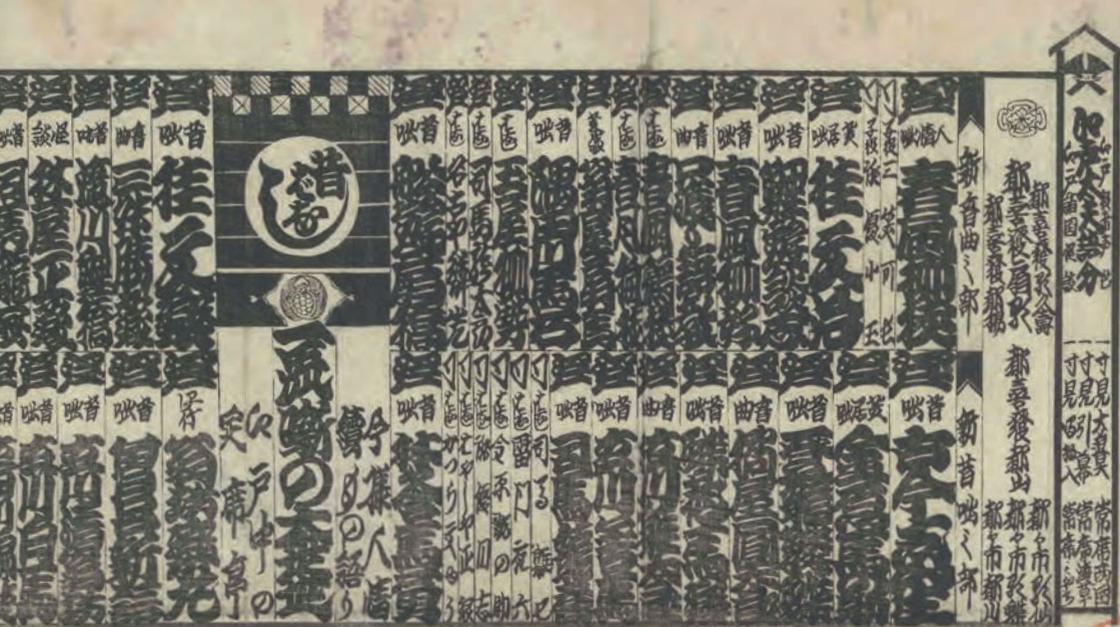
対価を取って噺を聞かせるプロの落語家は、元禄期（1688～1704年）ごろに活躍した露の五郎兵衛（京都）、米沢彦八（大坂）、鹿野武左衛門（江戸）の3人が始祖と言われています。なかでも鹿野武左衛門は、屋敷に呼ばれてお座敷で語る「座敷噺」で人気を博しました。その後町なかに寄席が誕生し、庶民の娯楽として急速に発展していったのです。最盛期と言われる文化・文政期（1804～1830年代）には、江戸に125軒以上の寄席が存在したとされています。

落語の登場人物の多くは、庶民であるのが特徴です。その中では、長屋（平屋を中心とした集合住宅的な賃貸住居）に住む町人（職人や野菜を売り歩く自営業者など）といった、記録には残りにくい人々の生活の様子が生き



生きと語られました。当時の観客にとって、これほど身近でじっくりとくる噺はなかったでしょうし、現代を生きる私たちにとっても、江戸の昔を垣間見る絶好の機会となっているのです。

日々の暮らしの 悲喜交々が語られた



落語から見えてくる 江戸っ子の暮らし

出典：国貞・画《江戸昔物語新咄者附首ばなし一流晰の大世世》(部分) 東京都立図書館所蔵

100万都市となった江戸は大きく武家地・町人地・寺社地に分けられますが、そのうちの町人地は全体の2割ほどと決して広くはありません。なおかつ、表通りは店や屋敷が構えられていることがほとんど。その裏にあった裏長屋こそが、庶民の生活の基盤となっていました。そこで肩を寄せ合い、互いに助け合いながら暮らしていた人々にとって、寄席

で催される落語は毎日の仕事の息抜きとも言え、泣いたり笑ったりが存分に楽しめるひとときを提供してくれたのです。

そんな寄席は、今でも健在。東京にあるいずれかの寄席を訪れて、江戸の風情を感じる古典落語を聴いてみてはいかがでしょうか。

1

王子の狐

一般に「狐は人を騙す」と言われますが、落語『王子の狐』では逆に人が狐を騙します。この噺の舞台は、寺社が多く、狐にまつわる伝説も複数残る王子の原にある王子稲荷神社。関東稲荷総本社として、古くから庶民の信仰を集めてきた場所です。また、噺に登場する「王子扇屋」は、厚焼き玉子や親子玉子を販売する厚焼き玉子専門店として現存しています。



2

堀の内

そそかしい主人公、熊五郎がその性格を直すために妻に勧められて妙法寺にお参りに行くという噺『堀の内』。妙法寺は厄除けなどで名高い歴史ある寺院ですが、彼はそこへ向かう道中でも失敗の繰り返しです。多くの笑いを引き起こしつつも信心に励もうとする熊五郎は、神仏を大切に思う江戸っ子らしさを備えていると言えるでしょう。



3

目黒のさんま

海から遠い目黒で食べた美味しいさんまを「また食べたい」と願う殿様に代えて、城内で出されたさんま。しかしそれは期待外れの味でした。そこから「やはりさんまは目黒に限る」とオチが付きまします。このとき殿様(徳川家光がモデルとされる)が訪れたのは、目黒不動尊(瀧泉寺)を中心とするエリア。目黒不動尊は日本三大不動、そして五色不動の一つとしても知られる名所です。ちなみに現在も、目黒では秋にさんま祭りが開催されています。

※日本三大不動……木原不動尊(熊本)、成田不動尊(千葉)、目黒不動尊(東京)

※五色不動……目黒・目白・目赤・目黄・目青





4

長屋の花見

桜を愛でつつ、お酒や食事を楽しむお花見。江戸の頃には歌や踊りの師匠が弟子を連れ、「うちこんな人気がある」と誇示することもあったようです。複数のお花見スポットがある中、現代まで変わらぬ名所とされているのが「上野の山（上野恩賜公園）」。誰でも気軽に訪れられ、落語『長屋の花見』では貧乏長屋の大家が店子（部屋や店舗等を借りている人）を誘って向かいました。貧しくとも遅く生きる江戸っ子精神が感じられる演目です。



5

初天神

学問の神とされる天神様（湯島天満宮）は商売繁盛や病気平癒のご利益もあり、江戸時代の庶民の守り神とも言える存在でした。毎月25日は「天神様の日」ですが、年初の1月25日は「初天神」と呼ばれる特別な催しですが、多くの人が参拝に訪れ賑やかさも増したものです。これは今も変わらない風景です。落語『初天神』は江戸に複数あった天満宮のうち、湯島天満宮を舞台としても考えられ、親子がそこへ初詣に行く滑稽劇として知られています。



6

芝浜

有名な人情斬『芝浜』は、江戸前期から発展した、本芝の漁民たちが雑魚（安価な魚、小魚）を中心に商いをしていた鮮魚市と関係します。市を訪れた酒好きの魚屋・勝五郎は浜辺で思わぬ大金を拾いますが、そこが現在の本芝公園周辺。鮮魚市の跡地であることを示す案内板も存在します。今とは異なる江戸時代の海岸線の位置がわかる、興味深い場所と言えるでしょう。

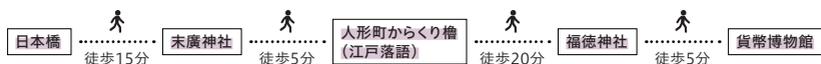


落語にまつわる見どころ 地域散策マップ

江戸一の娯楽とされた落語。その斬に関連する場所は、東京のいたるところに広がっています。落語を聴くのもいいですが、その舞台となった地を訪れるのもまた一興。落語の裏を、ちらりと覗いてみませんか。

粋な江戸を感じる日本橋

1603年に完成した日本橋は翌年に五街道（東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道）の起点とされ、以降大きな賑わいを見せました。経済、物流、商業、娯楽などの中心地となったことから、最新のトレンドが集まる場所だったとされています。ここを舞台にさまざまな文化や江戸っ子精神が醸成されていき、町人に愛された落語もまた発展していったのです。



歩 13:20

日本橋

銀座や東京駅に近い日本橋は、江戸と東京が混在する場所。日本橋とは地名であり、橋の名前でもあるのです。この地を訪れれば橋の美しさに感嘆させられるだけでなく、周辺に漂う独特な雰囲気も感じられるはず。江戸の昔から続く老舗とともに、洗練されたモダンなショップも軒を連ねる時代の交差点です。



13:35~13:45 歩

末廣神社

勝蓮災難避の神として名高い神社。1617~1657年には、元吉原（靉原八力町）の総鎮守社とされていました。江戸の頃に活躍した町火消（消防自衛団）「いろは四十八組」のうち、吉原周辺を守っていた「は組」の石碑も現存しています。新旧の吉原遊廓は落語の舞台ともされ、江戸の人々にとってはお馴染みかつ憧れの場所でした。

施設情報

- ☎ 03-3667-4250
- 📍 東京都中央区日本橋人形町2-25-20
- 🕒 ー ー

写真提供：一般社団法人中央区観光協会



13:50~14:05 人

人形町からくり櫓※ (江戸落語)

人形町商店街にあるレトロな櫓※。11時から19時まで、1時間おきに江戸情緒を感じさせる約2~3分のからくりが見られます。2基ある櫓の一つは「江戸落語」と呼ばれ、ちょっとした小噺や、江戸の町並みと町人たちの暮らしが展開される演出です。落語を聞きに行く時間の余裕がないときは、この櫓でその断片を感じてみては。

施設情報

📍 東京都中央区人形町2-2
🚶 〇



人 14:25~14:50

福德神社

古くは徳川家康も参詣したとされる稲荷神社。武将はもちろん、地域の人々にも崇敬されていたと言われます。また、幕府公認の富くじ興業（現代の宝くじに似たもの）が福德神社では催されていたため、しばしば活気に包まれたことも想像に難しくありません。富くじにまつわる落語では、一攫千金を狙う人の業、そこから生じる悲喜交々が語られています。

施設情報

📞 03-3276-3550
📍 東京都中央区日本橋室町2-4-14 🚶 〇 〇
※授与所・御朱印受付は10:00~17:00



写真提供：日本銀行金融研究所 貨幣博物館



14:55~16:00 人

貨幣博物館

江戸時代の金貨（大判）の実物が見られ、その重さも体感できます。銭と呼ばれる小額貨幣で何がいくらで買ったのか、生活に密着した観点から理解することも可能。貴重な貨幣を多数所蔵しその歴史を後世に伝えています。一両が、百文がどのくらいの価値を持っていたかを知ると、落語も一気に身近になってくるかもしれません。

施設情報

📞 03-3277-3037
📍 東京都中央区日本橋本石町1-3-1 (日本銀行分館内)
🗓 毎週月曜日(祝休日の場合は閉館)・年末年始(12/29~1/4)
※展示入替等のため臨時休館することがあります
🕒 9:30~16:30 (最終入館は16:00まで)



※ 櫓 (やぐら)：日本の古代よりの構造物で防衛や視察のために城内に建てられたもの



東京の観光公式サイト「GO TOKYO」
東京の最新の観光情報が確認できます。ぜひご覧ください。
<https://www.gotokyo.org/jp/>



東京の観光公式サイト「GO TOKYO」
もっと江戸について知りたい方
<https://www.gotokyo.org/jp/see-and-do/history/>



「Journey Through Edo's Legacy」
日本各地と連携した江戸時代の歴史や文化を感じる100の観光スポットを解説
<https://edolegacytravel.metro.tokyo.lg.jp/>



Go Tokyo
(東京ファンクラブ)



@TokyoTokyoOldmeetsNew



@tokyo_kankou



tokyotokyooldmeetsnew

TokyoTokyo Old meets New **EdoTokyo** THE LEGACY OF EDO

令和8年3月発行 東京都産業労働局観光部
<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/>
監修: 柳家 風柳、蝶花楼 桃花、株式会社風プランニング